

住民主体で福祉のまちづくりを推進する情報交流紙です

よつ葉のクローバー

KIKUSUI

No.28 2010.1.1



福まち通信

菊水地区福祉のまち推進センター運営委員会
札幌市白石区菊水6条4丁目3-10
電話 011-887-7006 FAX011-887-7006
URL <http://kikusui-net.jp>

謹賀新年

謹んで新年のお慶びを
申し上げます

平成二十二年元旦

菊水地区福祉のまち

推進センター運営委員会

年末ジャンボ餅つき大会

12月6日(日)午前10時から上白石小学校体育館で、菊水上町地区恒例の餅つき大会が開催されました。主催者は菊水上町連合町内会・上白石小学校 PTA とおやじの会の共催でした。



早朝から役員の皆さんが会場に集まり、前日から仕込んでいたもち米の搬入や会場の設営で大わらわです。開会の午前10時には大勢の親子連れが会場を埋め尽くし、その数150人を優に超える状態でした。

会場内は、蒸しあがった米の匂いと、4台の臼でもちをつく音や子どもたちの歓声とで満ち溢れていました。





主催者側のリーダーは、連合町内会の池本副会長で、上白石小学校のPTA 会長やおやじの会の会長を務めたことのある地域活動のベテランです。彼の指揮のもと壮年の役員たちがきびきびと働いている姿が印象的でした。

子どもたちは搗きあがったもちを頬張って満足げでしたが、それ以上に、日本の伝統文化に直接触れさせた教育的効果は、子どもたちに計り知れない影響を与えたものと思います。

福祉施設の利用者の方を招待しました

この餅つき大会には、地域の福祉施設の利用者の方々が招待されていました。地域密着型特別養護老人ホーム「こまちの郷菊水」と認知症対応型グループホーム「ハートの家伍番館」の

皆さんです。施設職員の方とご家族の方たちに導かれて会場にやってきました。

普段の施設での生活とは全く違う会場の熱気に圧倒されながらも、次第に雰囲気は溶け込んでいきました。重たい杵を振り上げてもちをつく子供たちに刺激されて、しまいには負けられないと、自分も一緒に杵を持つ80歳代の男性利用者も見られました。

「昔はよく年末に餅つきをしました。何回か搗かしてもらって昔を思い出しました。まだまだ元気なので来年も誘ってください」と意気軒昂です。「楽しかった。元気に走り回る子供たちから、元気ももらいました。」との女性高齢者も嬉しそうでした。

同行した「ハートの家伍番館」の利用者ご家族からこのようなメッセージが寄せられました。

小学校に着いたとき、町内の皆さんが笑顔で迎えてくださり、車椅子を持ち上げて階段を上がり、タイヤの汚れまでふき取ってくださる姿に、「こんなことまでしていただき！」とありがたく思いました。

母が認知症になってからは、病院以外は母を連れて外に出かけなかったのですが、「人って、こんなに優しくったんだ！」と、改めて思いました。母と一緒に参加できてよかったです。

また、「認知症という進行性の難病を抱えての日々の生活ですが、このような地域の皆さんとの交流は、病状の安定や改善にそれなりの効果を発揮すると同時に、人と人との心の交流が施設での生活に安らぎを与えてくれます。これからもよろしくお願いします」とのコメントもいただいております。

(谷内山編集員)

福まち活動交換会

11月27日午後1時半、白石区民センター3階区民ホールにおいて、白石区社会福祉協議会主催による「平成21年度白石区・地区福祉のまち推進センター活動交換会」が開催されました。出席者は各地区の福まち運営委員のほか、包括支援センターや介護予防センターの職員、および関係行政機関職員の約50名でした。



この催しのテーマは、「災害時に備えて、普段からできる取り組みについて」で、最初に北海道大学大学院文学研究科・文学部教授 関孝敏氏による基調講演が行われました。その内容は、災害に備えて普段から地域の活動計画や取り組み実践の整理を怠らないこと。活動実践の担い手の発掘や補充をいかに図るか。関係機関との協働的参加や行政機関の機能をいかに取り組んでいけばよいのかなどでした。



地域における活動事例の発表

次に、北白石地区の北郷親栄第一町内会(加入世帯632世帯)の田畑会長から「要援護者支援対策への取り組みについて」の活動事例の発表がありました。

阪神淡路大震災や中越地震などで、地域住民の防災意識は高まりを見せています。また、高齢社会の進行の中で、住み慣れた地域で安全に住み続けることの必要性を認識する意識も高まっています。しかし、これをどのようにして地域で実現していくのかという段階で、多くの地域では足踏みをし

ているのが現状です。

北郷親栄第一町内会では、北白石地区で行われた DIG (災害図上訓練) ワークショップを契機として、単位町内会として独自に「防災マップ」を作りました。これを基に、2年前の、平成18年4月「防災サポート隊」を組織し、災害時要援護者(独居老人)への対応と、防災・防犯パトロールを実施しました。

パトロール隊員は現在20名で、防災リーダーの研修を受け赤い帽子とオレンジのジャケットを着用して、23人の対象者のパトロールに当たっています。

活動事業の評価

この実施にあたって一番の課題は、「個人情報」の取扱いであり、民生委員との連携が成功のかなめであった。当面は防災活動を主眼とするが、防犯への取組を視野に入れている。将来は「福祉」という大きな目標を目指すという。

この町内会はいくつかの課題を乗り越えて、地域における災害時要援護者の援護活動の足がかりを築いた。この事例や市内各所で実践されているこの種の活動を範として、菊水地区においても災害時要援護者の援護策を講じる時期に来ていると感じた。

(枝元編集員)



子育てサロン「どんぐりころころ」

12月8日(火)菊水地区会館で行われた「どんぐりころころ」を訪問しました。

午前10時、この日はクリスマス会ということで、たくさんの親子が集まっています。この会は民生委員さんが運営していて、今日は上町地区が当番というこ



とでした。いつものように、仲良し親子が小さなグループを作り、お母さんたちはおしゃべりを楽しみ、子供はその周りで玩具遊びをしています。



ゲームが始まります。福笑いの要領で親子でサンタさんの絵を完成させるゲームです。サンタクロースとトナカイさんが登場すると、子供たちから歓声上がり、その周りに群がります。お母さんたちは携帯電話でその写真を撮っています。

会場の興奮が落ち着きを取り戻したころ合いをみて、大きな絵本で読み聞かせが始まります。子供たちはお母さんにダッコされて聞き入っています。続いて、ハンドベルの演奏です。きれいな響きに皆うっとりです。今日最後のイベントであるサンタさんからのプレゼントがよい子たちに配られます。来年も元気で参加してくださいの聲に送られて親子は家路につきました。



介護予防「すこやか倶楽部」

12月10日(木)菊水ビル4階で行われた「すこやか倶楽部」を訪問しました。



介護予防センター菊水では、相談事業のほか、65歳以上の高齢者を対象として、介護予防の普及・啓発事業「すこやか倶楽部」を行っています。普段は菊水5条2丁目の「西町集会所」と菊水上町4条1丁目の「上町会館」の2か所で毎月1回行っています。血圧測定・健康相談などの後、音楽に合わせて軽いストレッチ体操をしたり、ゲームや工作などを行います。



今回はクリスマス特別バージョンで、会場も菊水ビル(菊水4条2丁目)4階で行われました。

今日の参加者は16名で、元気な94歳の方が2名おられます。簡単な挨拶のあと、さっそくゲームに入ります。最初のゲームは、ボタン送りです。5個のボタンを箸でつまんでコップに入れリレーしていくゲームで、これがなかなか難しい。

イベント中止のお知らせ

毎年1月に行われていました「高齢者と子供の交流会」は、新型インフルエンザが蔓延している関係から、今年の開催を中止することに決定しました。参加を楽しみにしていた皆さんには大変申し訳ありませんが、子供たちの健康を考慮し中止の判断をしたことにご理解とご協力をねがいます。(菊水地区まちづくりネットワーク会議)

輪ゴム渡し、ジェスチャーゲームと続き、クリスマスに因んで「真っ赤なお鼻のトナカイ」を斉唱しました。最後に介護センターが用意したプレゼントが渡され、みんなで一緒にお弁当を食べて会を終えました。参加された方は皆和やかに楽しんでおられ、「また次の会が待ち遠しい」といって帰られました。

編集後記

明けましておめでとうございます。今年でよつクロは4年目に入ります。昨年は念願のホームページも完成し情報伝達手段が一層充実しました。今年目標としては、より一層親しんでいただける紙面の充実をめぐる所存です。継続は力を合言葉に、情報の力で地域の福祉充実に励みます。(編集部一同)